

## 知的財産事例

### 株式会社タテコーポレーション

# 「気になる」「使ってみたい」新たな自転車用品のカタチ 豊かなセンスと多角的な視点で、独自ブランドの販路を広げる

#### 事業内容

2014年創業

自転車及び電動アシスト自転車の各種保安用品の開発

#### 知的財産権と内容

意匠第1812498号	電動アシスト自転車バッテリー充電端子保護カバー
意匠第1811445号	自転車用バスケットカバー
意匠第1811443号	電動アシスト自転車バッテリー充電端子保護カバー
意匠第1785916号	自転車用錠
商標第6928828号	Fino

他 商標権3件、意匠権46件

(2025年11月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役社長 齋藤 みのりさん

#### 自転車用品製造の3代目として 「女性」目線の独自ブランドを展開

祖父の代から自転車の鍵を製造する会社を営む家に生まれた齋藤社長は、家業を継ぐ形で自らも同じ世界に飛び込み、2014年に自社ブランドを取り扱う会社を設立。自転車、および電動アシスト自転車向けの用品を企画・開発する「タテコーポレーション」と、製品を販売する「ティーエス」の2社体制で、国内の小売店や量販店へ商品を届けている。当社は齋藤社長の業界での長年の経験を活かし、働き手の9割が男性である自転車業界の“当たり前”に一石を投じる形で、「女性目線」や「子ども目線」で消費者が心惹かれるデザイン・パッケージの自転車用品を製造してきた。代表的なのは、美しさと機能性を兼ね備えた電動アシスト自転車用品専門ブランド『Fino（フィーノ）』である。ブランドカラーに“白”を用いており、当初は修理の際の汚れへの配慮などを理由に販売店の理解を得るのが難しい面もあったが、信念を貫き開発や営業を続けた結果、現在では定番となった製品も多い。今後はグローバルでも通用する「自転車用品文化」の構築を目指し、引き続き革新的な視点で構想を続ける方針だ。

#### 知財へのハードルの高さを感じていたところ 無料相談での弁理士との出逢いが取得の契機に

独自性を保護する手段として、知的財産権の存在は頭にあったという齋藤社長。しかし、当初は「費用がか

かる」「手続きが難しい」といったイメージもあり、なかなか行動に移せていなかったという。そんな時、ふと足を運んだのが愛知県のINPIT知財総合支援窓口の無料相談会だった。そこで紹介を受けた中村弁理士から「開発やデザインの追求が他社との差別化に繋がっていることや、製造にあたり国外（中国）に生産委託を行っている業態を踏まえると、ぜひ知財を取得すべきだ」とアドバイスを受けたそう。特に自転車業界においては女性や子ども向けのデザインや仕様は珍しくもあり、従来とは異なる視点が評価された結果、無事初めての知財である意匠権の取得を果たした。その経験が契機となり、現在では50件にのぼる意匠権に加え、商標権も取得。出願の際には、齋藤社長自ら発案・製品化した内容を社内デザイナーが図面に起こし書類を作成している。そして、今や顧問として心強い存在となっている中村弁理士に専門的な知識を仰ぐという体制で、日頃の製品開発の流れを利用しつつスムーズな知財マネジメントを実践しているという。

#### 権利の保護・営業・社員教育など 様々な面で知財は大きな存在に

知財の取得により、自社の権利が明確になったことで、生産委託先の中国工場や国内の競合他社に対する模倣防止等のけん制効果が高まったのを感じている。また、カタログやパッケージにおいてもすべての製品に意匠登録番号を明記しているが、取引先だけでなく消費者

にとっても、商品を選ぶ際の信頼に繋がっているようだ。ゆくゆくは海外市場への展開も視野に入れているため、既に中国にて権利の取得を進めているほか、ヨーロッパでの知財出願も検討するなど、当社における知財の重要性はますます高まっている。社員に対してもその意思を伝えるべく、入社時に知財に関する会社方針を説明した上で秘密保持契約を交わすことで、特別な研修を実施せずとも自然と知財への意識が波及する仕組みを整えているという。苦勞して開発した製品の権利を会社がしっかりと守ってくれている、とも感じられ、社員の安心感の醸成に繋がっているようだ。

### 知財取得・活用における苦悩



知財の取得に関しては業務の一環として比較的スムーズに進められているが、その管理については課題も残る。当社は齋藤社長自らがメインで確認を行っているため、特に件数が増えてくると休日を利用して作業を進めざる

を得ないなど、負担が大きくなりがちだという。ゆえに今後は管理ソフトの導入や知財人材の採用・育成などを視野に入れ、効率的な管理体制を模索しているようだ。また、過去には模倣被害を受けた経験もあるが、「社員や協力メーカーのためにも、ビジネスを広げていく上では毅然として対応すべき」との姿勢で、中村弁理士の力を借りながらその都度厳格な対応を心がけている。

### 知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「自社で“これだ!”と感じる製品ができた時、知財はそれを守る手段として非常に有効。もし手間や費用をネックに感じているとしたら、専門家への無料相談など気軽な手段からまずは試してほしい」と齋藤社長は話す。また、「モノづくりで生きる中小企業だからこそ、挑戦するメリットは大きい。一度経験してプロセスを知れば二度目以降のハードルが下がる可能性もあるので、支援機関等の助けを借りつつ進めてみては」と続けた。



女性目線のデザインとブランドカラーの白が目を惹く代表ブランド『Fino（フィーノ）』



愛着の湧くキャラクター性とユニークな形が魅力の『オモシーロック』



### 知的財産活用のポイント

#### 数々の意匠権が守り抜く 「選ぶのが楽しくなる」自転車用品

齋藤社長が「女性向け」を意識するきっかけとなったのは、かつて展示会のため東京・表参道に足を運んだ時のこと。街中で電動アシスト自転車を運転する女性たちを見て「洗練された装いにも似合う、よりファッショナブルなニーズに寄り添った

自転車用品を作りたい」と感じたのだという。その豊かなアイデア力により、社長の愛犬からヒントを得た『DOGGY LOCK』や、大きな目で愛車を守ってくれる『オモシーロック』など、ユニークな鍵製品も次々誕生。デザインやパッケージを評価され、ホームセンターや雑貨店、有名キャラクターなどとコラボした製品開発にも繋がった。知財の中でも意匠権の取得に力を入れる当社だが、それが唯一無二の発想を強固に守り抜いている。

## COMPANY DATA

取材：2025年11月

企業名：株式会社タテコーポレーション 所在地：愛知県春日井市若草通5-6-2 電話番号：0568-37-0772

URL：<https://tscorp.info/> 創業：2014年 資本金：1300万円 従業員：20名

